なんでもインフォ
2020.8
発行：株式会社昭和土木設計　岩手県矢巾町流通センター南4丁目1-23　TEL019-638-6834　FAX019-638-6389

黄金山（こがねやま）発電所　～田瀬湖に眠る近代遺産～

黄金山発電所は、かつて和賀郡谷内村田瀬（現：花巻市東和町田瀬地区）にあった水力発電所で、1920年（大正9）に操業を開始しました。

取水口から発電所までの約3.2kmを開渠と3本のトンネルで結び、25mの落差を利用して電業社製双輪横軸水車と芝浦製作所製発電機を回し、3,100kwの電力を発電していました。



▲黄金山発電所および画像撮影位置（国土地理院地図を加工して作成）

当時、近隣の岩手軽便鉄道*1岩根橋駅付近にはカーバイド工場、合金精錬工場、製鉄所などが立ち並び、急速に工業化が進んでいた折、その旺盛な電力需要を満たすため、岩根橋発電所（1918年操業開始、出力1,760kw）に次いで猿ヶ石川に設けられたのが黄金山発電所でした。

ちなみに岩根橋駅の工場群は宮澤賢治も度々訪れており、「カーバイト倉庫」等の詩が遺されています。また、岩根橋の鉄道橋を見て「銀河鉄道の夜」の着想を得たらしい、ということでも有名です。

◆盛岡電気株式会社

黄金山発電所を経営していた盛岡電気は1904年（明治37）創業。北上回漕会社、盛岡交話会をルーツとする岩手の資産家・企業家により創立されました。のちに地域電力会社との吸収合併を繰り返し、花巻温泉および花巻温泉電気鉄道*2の経営に乗り出すなど経営の多角化を進め、売電で得た富を次の投資に繋げ、また更に富を生む…という資本のサイクルを確立し拡大を続けました。

ここでは取り上げませんが、戦前岩手の経済史も中々興味深いものです。インターネットで簡単に検索できますので、調べてみることをお勧めします。（検索例：🔍北上回漕、🔍金田一国士：きんだいちくにお）

◆大正から昭和へ

一時、隆盛を誇った岩根橋地域の工場群は、第1次大戦以降の安価な外国製品の流通により縮小の一途を辿り、相次いで閉鎖となりましたが、岩根橋、黄金山発電所は生き残り、上流に新設された附馬牛（つきもうし）発電所（1931年操業開始、出力3,000kw）とともに、大口需要家となった釜石鉱山へと電力を送り続けました。

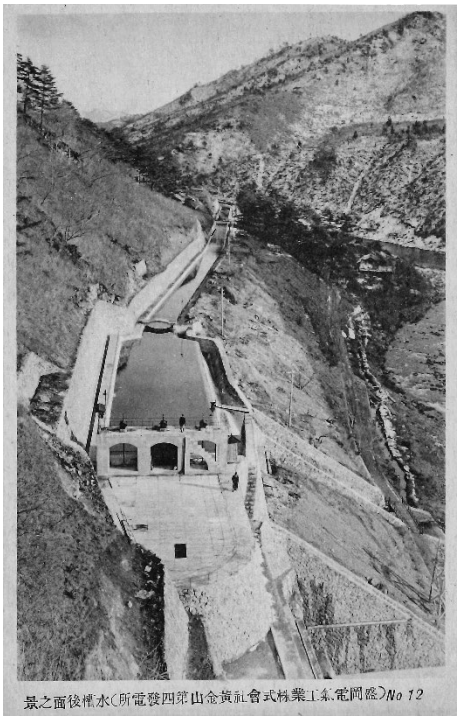
◆終焉へ

盛岡電気と地域の経済発展を支えた黄金山発電所も、1954年（昭和29）田瀬ダムの完成までに廃止され、田瀬ダムとともに建設された東和発電所（27,000kw）にその座を譲り、役目を終えた今は、ひっそりと水際に佇んでいます。

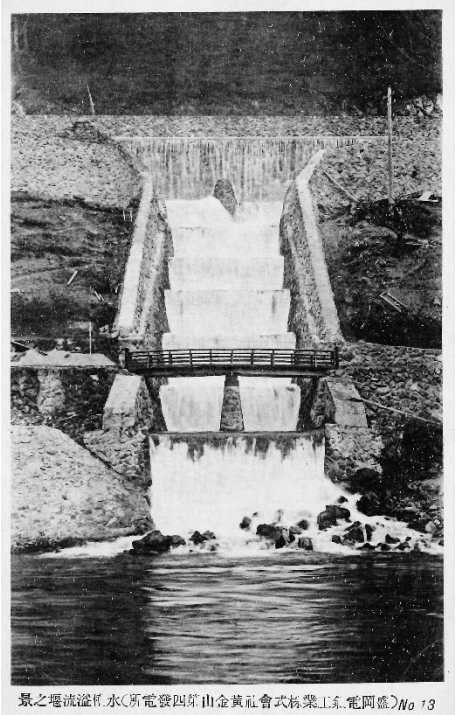

▲画像①：堰堤・取水口跡


▲画像②：発電所・水槽跡

田瀬湖に架かるつり橋（白金橋）からその姿を見ることができますので、お近くにおいでの際は、在りし日の姿に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



▲画像③：発電所の水槽（1920盛岡電気工業 絵葉書）



▲画像④：水槽越流堰（1920盛岡電気工業 絵葉書）

*1 **岩手軽便鉄道** 花巻駅から仙人峠までを結んでいた鉄道。1911年（明治44）設立、1936年（昭和11）国有化。軌間（レール間隔）が東北本線等の1,067mmに対して762mmと狭く簡易な規格であった。

*2 **花巻温泉電気鉄道** 花巻駅から鉛温泉及び花巻温泉間を結んでいた鉄道。1913年（大正2）設立、1976年（昭和51）岩手県交通に統合。軌間762mmの電車を走らせていた。

参考文献 日本動力協会編（1937）「日本の発電所 東部日本篇」，pp. 266-268，工業調査協会.
笠井雅直（2006）「企業家と地域経済史：盛岡電気工業・花巻温泉・花巻温泉電気鉄道の事例から」，『名古屋学院大学論集 社会科学篇』42（3），pp. 85-96.
西野寿章（2017）「戦後の岩手県における山村地域の電化過程についての覚え書き」，『地域政策研究』（高崎経済大学地域政策学会）19（4），pp. 189-207.

配布者：

作成者：ICT推進室　菅原 賢一